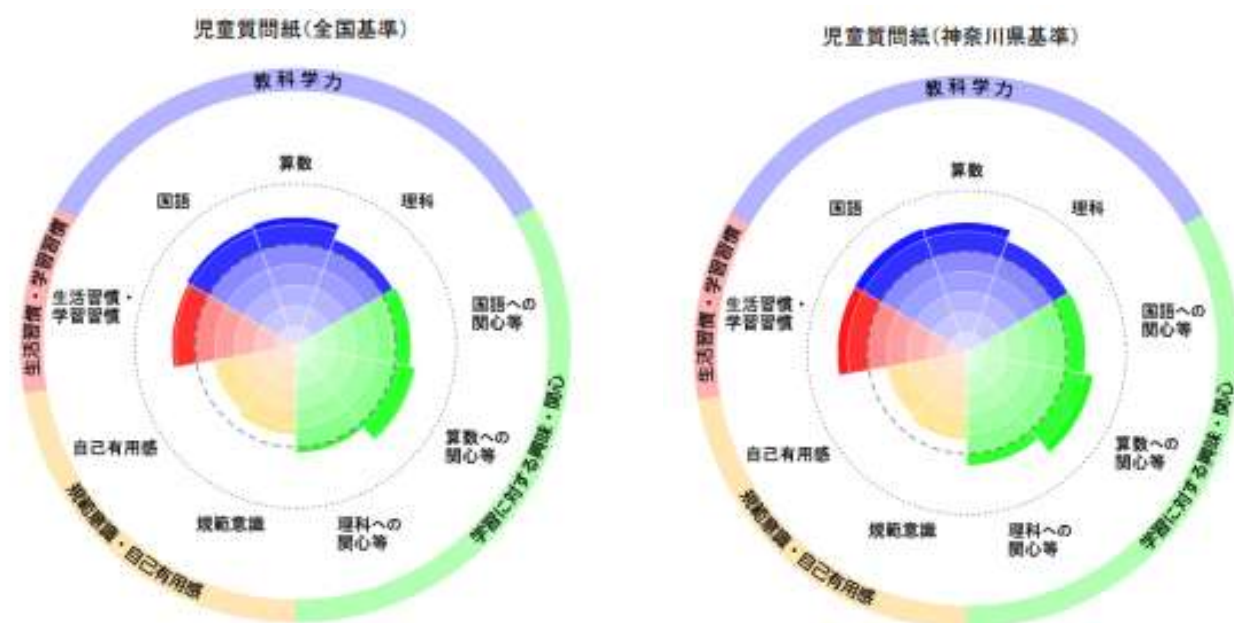


<令和4年度 全国学力・学習状況調査の分析について>

4月に小学6年生を対象に全国学力・学習状況調査(国語・算数・理科)が実施されました。調査の結果をお知らせいたします。



【学習について】

2教科とも全ての観点において、全国基準・県基準を上回っている。

国語は、全国平均正答率より本校の平均値は約12ポイント高い。また、算数においても、全国平均正答率より本校の平均値は約10ポイント高い結果が出ている。学習内容が難しくなってきてはいることもあり、個々によって学習に対する意識の差が大きくなっている。

【生活習慣・学習習慣(質問紙調査結果)】

将来の夢や目標をもって学習しようとする姿勢、学習に対する興味・関心が高い。また、地域や社会で起きている問題や出来事に関心がある一方、地域社会などでボランティア活動に参加したことは少ない。

【課題と課題に対する改善の手立て】

校内の重点研究で、「豊かななかかわりを通して互いの思いを伝えあう子の育成」を目指し、資質・能力の育成や見方・考え方の成長を目指し取り組んでいる。問題解決学習を行う中で、「子どもが問いを見いだす授業」となるように、既習との違いや似ているところを意識できるようにすること、また自分がこの学習を通して何ができるようになったのかを振り返ることを大切にしている。国語では、しっかりと相手を意識した教育活動も行っている。今後は、自分の思いや考えを伝える・発信する力を付ける授業や、様々な教育活動の改善や工夫をさらに進め、互いの思いを伝え合うことができる子どもたちを育てていきたい。